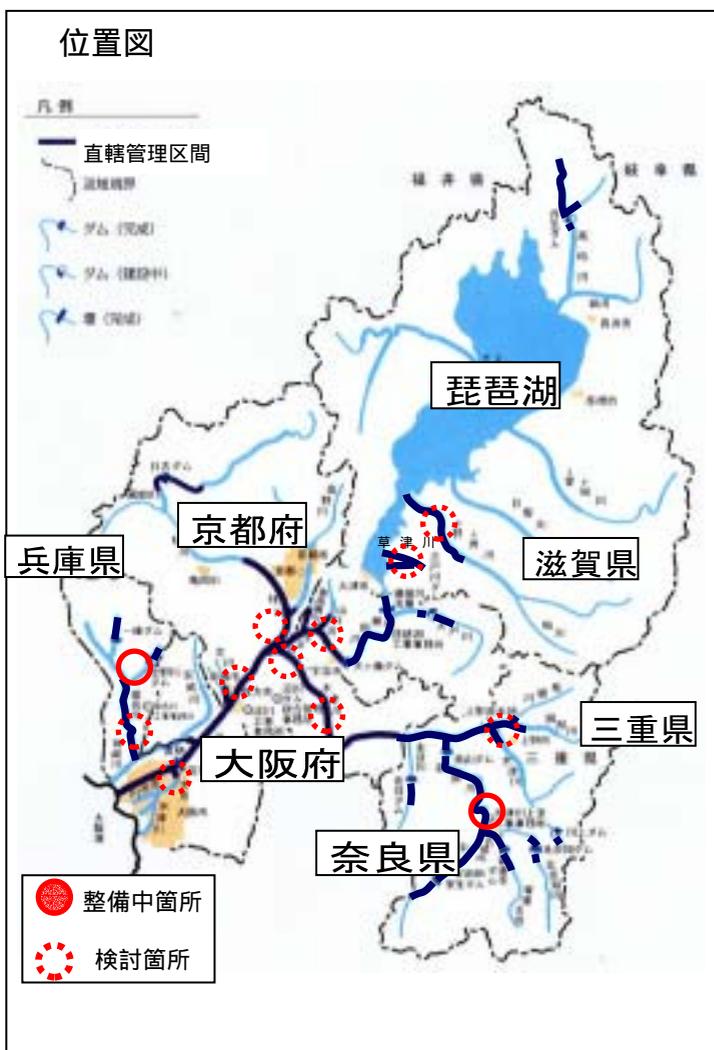


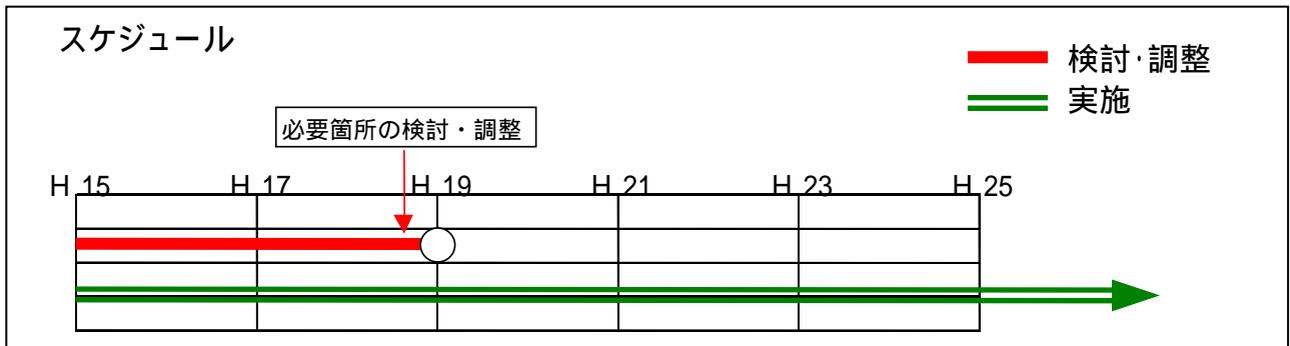
基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.41	行	23行目
事業名	みんなで守る(水防活動、河川管理施設の運用)		河川名	淀川水系			
府 県	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県						

**現状の課題**  
 洪水時における円滑で効果的な水防活動や災害時の緊急復旧活動等を実施・支援する防災活動の拠点や搬入路等の整備も十分でない。

**河川整備の方針**  
 水防団との連携を一層強化するとともに、支援方を検討する。  
 洪水時に、円滑且つ効果的な水防活動が出来るように活動拠点を確保し、河川情報の共有化やシステムの構築を図る。  
 内水排水ポンプ場の運転については、あらかじめ運転調整を図る。



- 具体的な整備内容**
- 水防活動への支援方策
  - 防災機関との連携  
水防警報・洪水予報
  - 広域防災施設整備対策  
防災ステーション
  - 災害対策用車両の搬入路等の整備
  - 非常用資器材の備蓄  
洪水時の堤防破堤対策や法面補強等への迅速な対応が可能となる非常用資器材を備蓄  
桜つつみモデル事業
  - 排水機場運用の検討



水防団との連絡会において、課題を踏まえた支援の方策等について検討する。

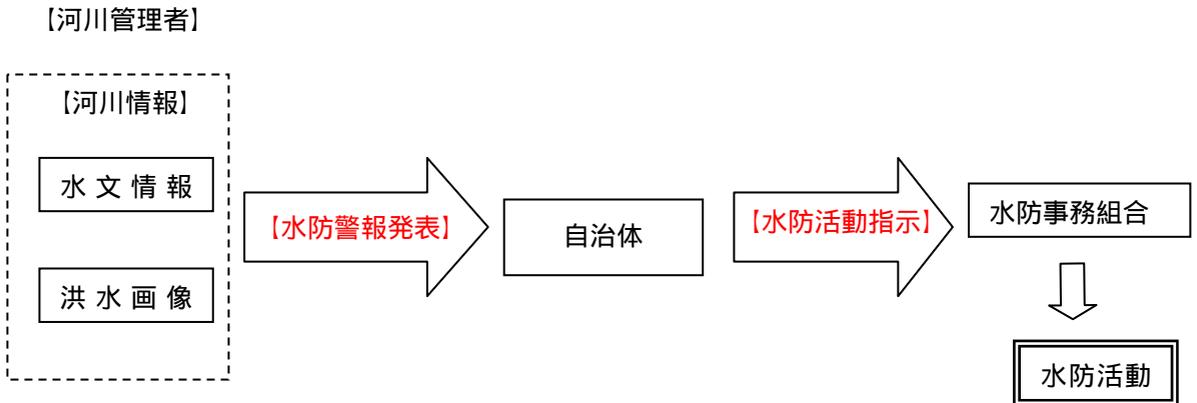


水防連絡協議会

## 防災機関との連携

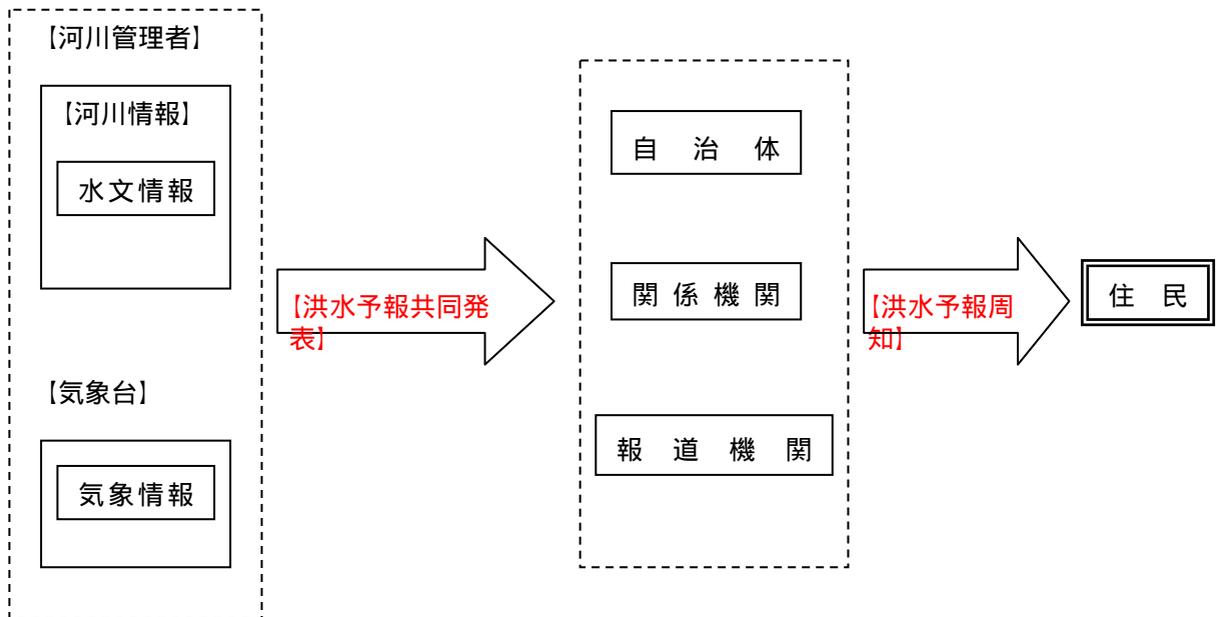
### 【水防警報】

・堤防などに洪水により被害をおよぼすおそれがある場合、河川管理者より水防管理者にその危険性を通知(水防警報発表)し、水防管理者は水防事務組合等に水防活動を指示する。



### 【洪水予報】

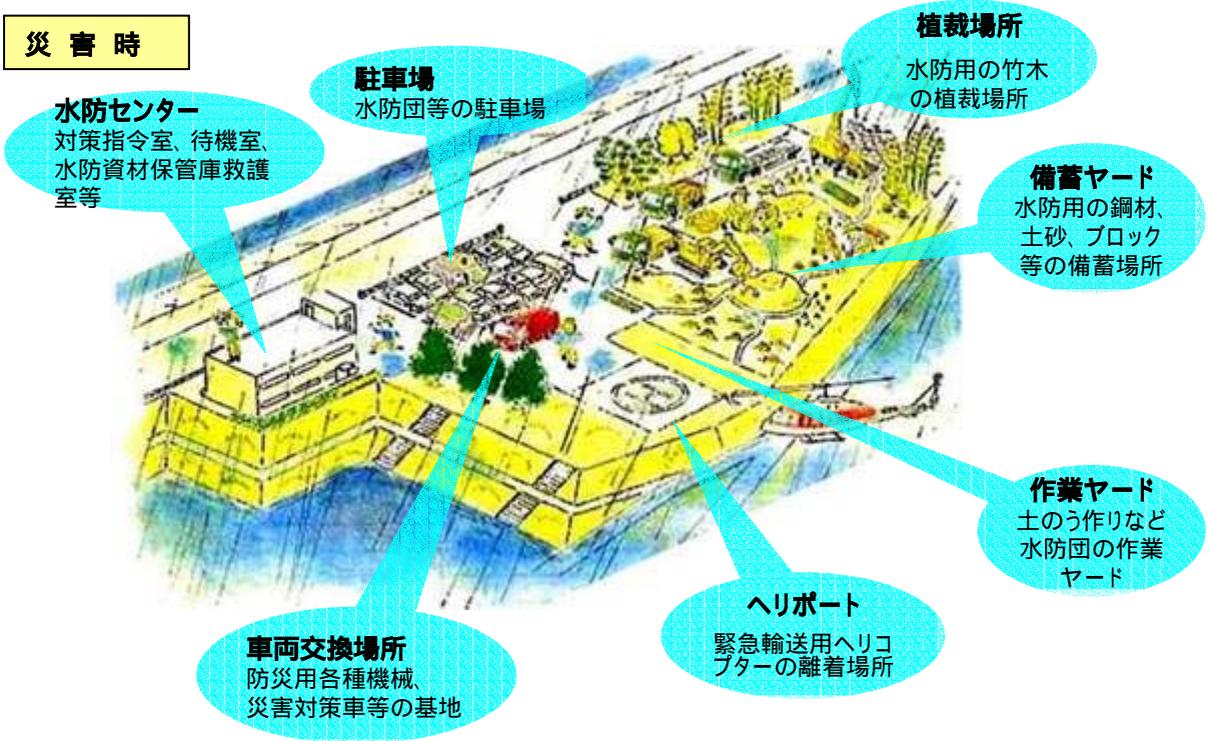
・河川で洪水により一般に被害をおよぼすおそれがある場合、河川管理者と気象台が共同で河川水位状況及び雨量状況について洪水予報を自治体や放送メディアを通じて住民へ周知する。



## 広域防災施設整備対策

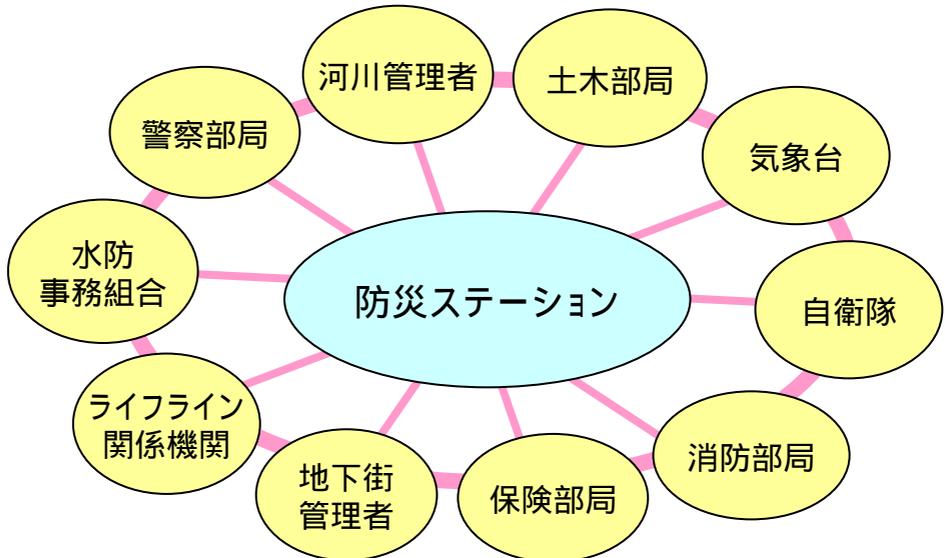
防災ステーションを、洪水時における沿川市町村等の水防活動の拠点や、一時的な避難所として活用できるよう検討する。資材の備蓄、情報集積・発信の基地としての利用、情報集積により、迅速で効果的な水防活動が実施できる。

### 災害時



## 災害時の防災ステーションを核とした情報の共有化

災害時に、様々な組織が防災ステーションに結集することにより、情報を一元管理でき、迅速で機能的な活動を行うことが可能となる。



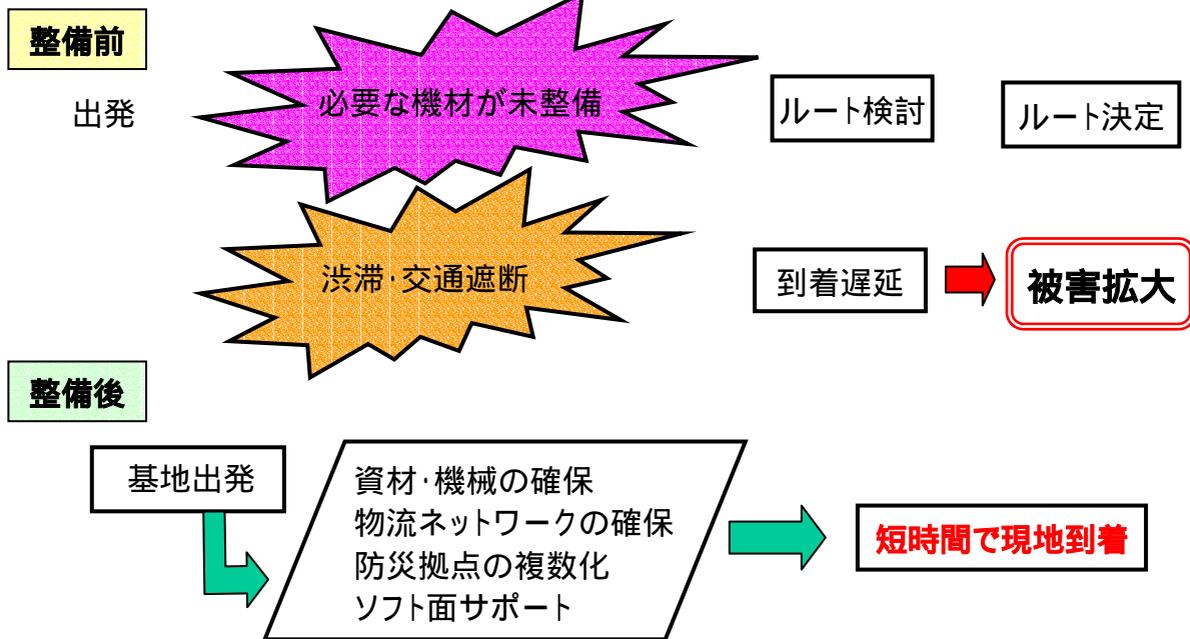
### 災害対策用車両の搬入路等の整備および非常資材の備蓄

災害発生時に災害対策車両や機械が迅速に現場に到着し活動できるように、搬入路を設置したり拡幅などを行うとともに、復旧活動に必要な土砂やブロック等の復旧活動資材や水防資材、救援物資等を備蓄することによって、より迅速な活動や対応を行うことができ、被害の軽減を図ることができる。

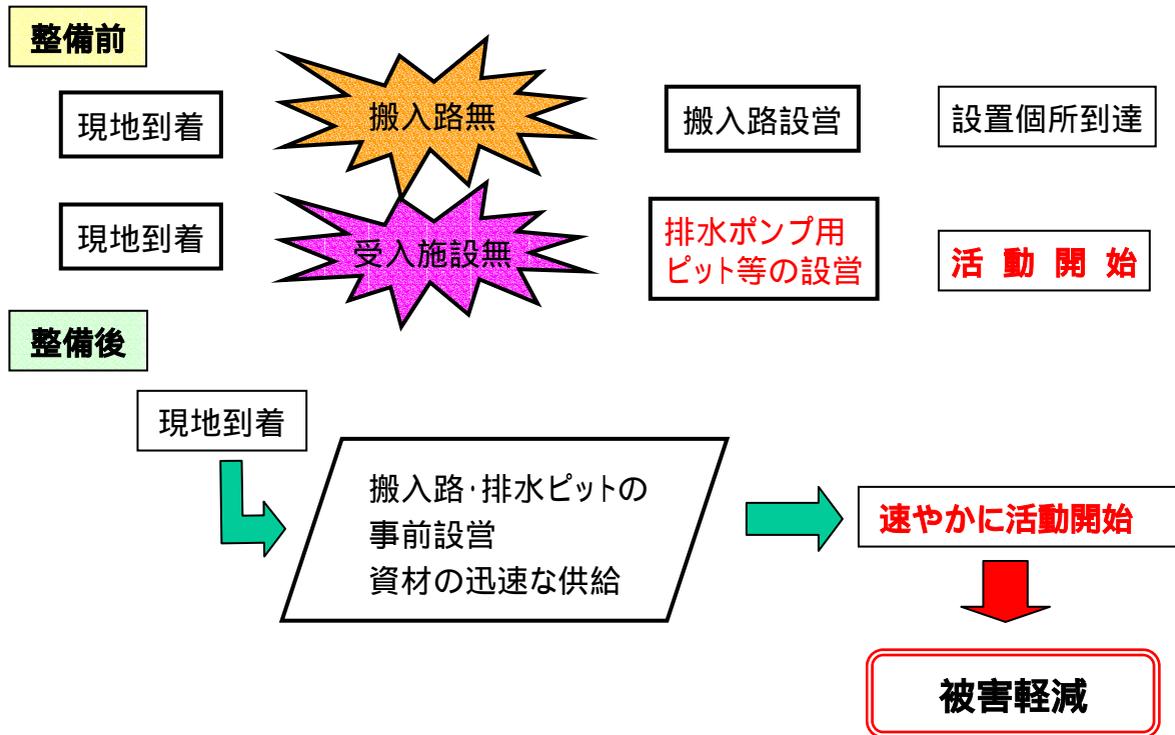
#### 災害対策用車両の搬入路等の整備 浸水・災害による被害の軽減

浸水・災害発生から水防活動開始への時間短縮

##### 到着時間の短縮



##### 設営時間の短縮

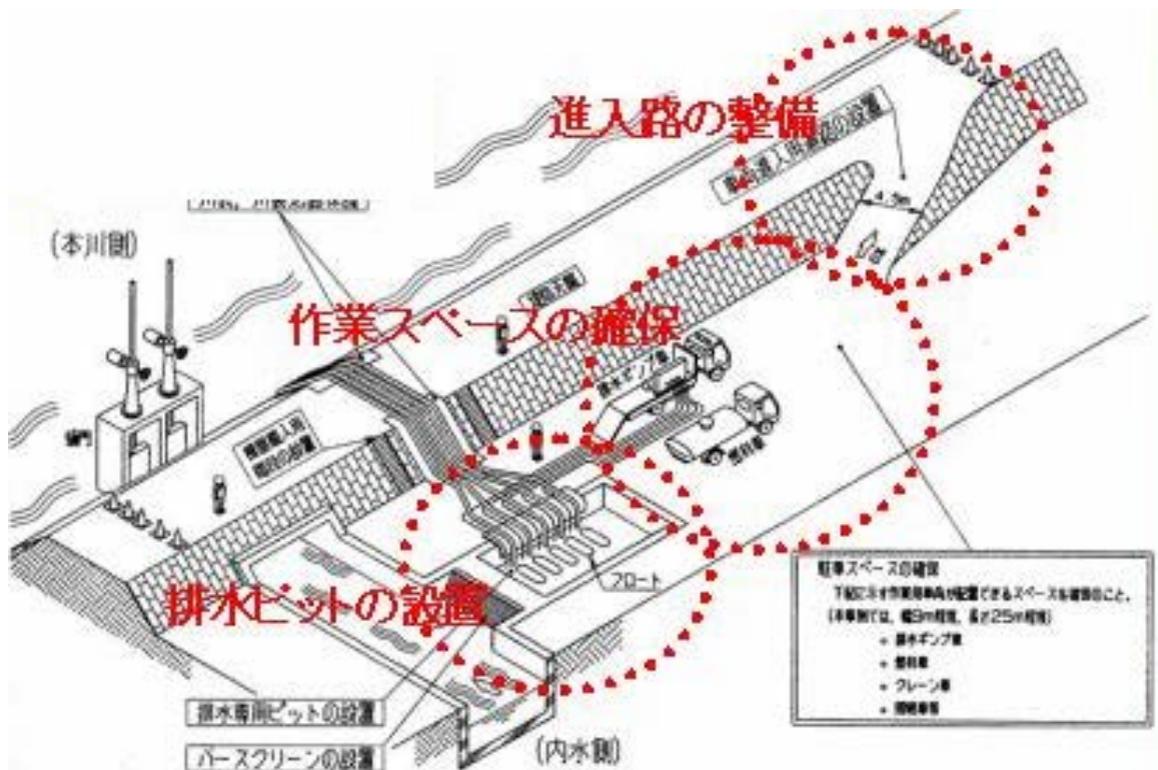


イメージ図



災害対策機械の稼働

排水作業設置例: 堤内地利用



## 非常用資器材の備蓄

洪水時における円滑で効果的な水防活動や災害時の緊急復旧活動等を実施、支援するため、非常用式材の備蓄をする必要がある。



水防倉庫

水防倉庫内の備蓄器材



緊急復旧活動等を行う資材の備蓄をするため、桜つつみモデル事業が行われている。

(非常用として桜の木も水防工法用として使用することもある。)



## 排水機場運用の検討

### 猪名川排水ポンプ場運転調整連絡協議会(仮称)

#### 協議会メンバー(予定)

河川管理者(国土交通省、府県河川担当部局)、府県(下水道担当部局)、関係市町村(河川担当部局、下水道担当部局等)、その他排水ポンプ場管理者、学識経験者

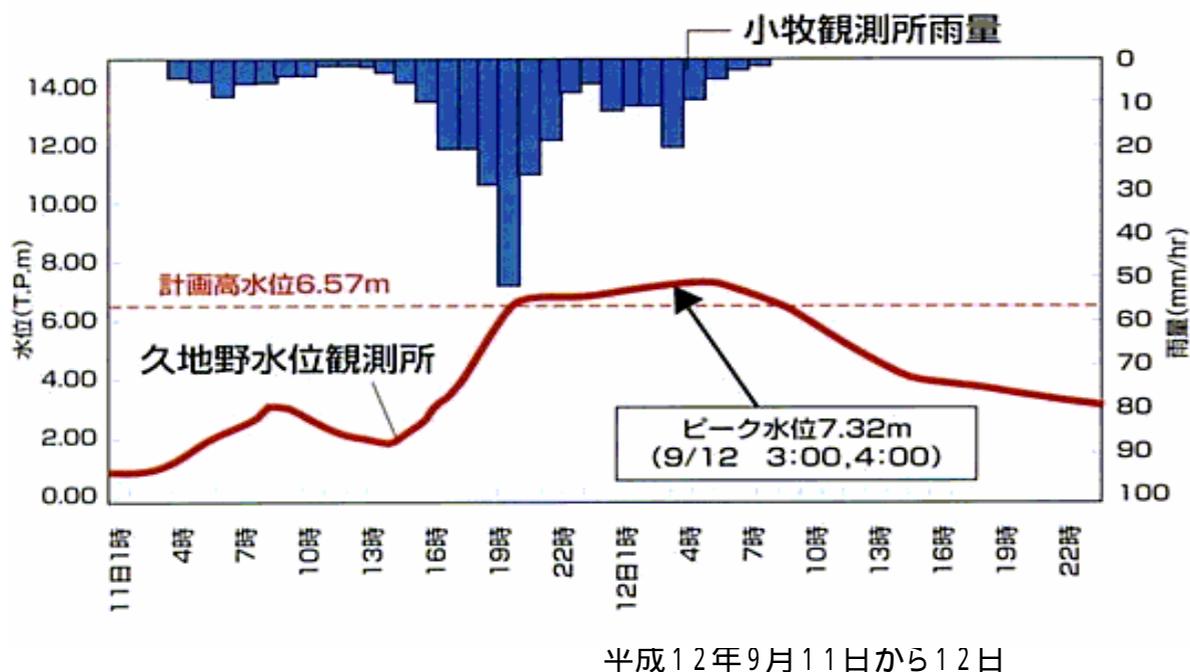
#### 運転調整

出水時における内水を排除するポンプ場については、強制排水を継続すると現在の整備水準を超える豪雨に見舞われた場合等に、管理河川堤防の決壊による甚大な被害が生じる可能性がある。このため洪水による被害を防止するための措置をとる必要があり、運転調整(河川の負担を減らす排水ポンプの停止等実施)を実施する。



## 排水ポンプ場運転調整の効果

(平成12年庄内川出水での実績)



### 通常の雨の場合では

排水ポンプにより猪名川に放流される水量は河川全体で約 $190\text{m}^3/\text{s}$ で、下流流域の堤防安全上の許容流量を超えるような洪水が発生した場合、排水ポンプ等の人的な施設による河川流量増加により、下流流域の治水安全度が低下する。

このため、河川管理者を始め、排水施設管理者、流域自治体、下水道管理者等から成る協議会を設立し、**運転停止を含めた調整体制**を検討し、これにより、下流域で堤防からの溢水や破堤に至ることのないようにする。

### 一方下流域の堤防安全上の許容流量を超えるような洪水が発生した場合

堤防からの溢水、破堤の危険性が大きくなる場合が想定される。

このとき、上流域からの排水ポンプによる強制排水を継続すると、下流部では河川流量が増加し、河川水位が上昇する。

その場合下流部流域の治水安全度が低下し、ますます堤防からの破堤の危険性が高まる。

このような危険な状態では、**排水機場の運転調整**(排水先河川の出水状況による運転停止も含め)図る必要がある。

(協議会運営フローチャート)

猪名川排水ポンプ場運転調整連絡協議会(仮称)

学識経験者

河川管理者、施設管理者等関係機関

(平成15年度中に設立予定)

運転方針の議論

情報連絡網等体制の確立及び運転調整実施要領の策定

防災機関との調整  
運転調整、貯留機能との調整

みんなで守る部会

計画部局との調整

自分で守る部会

土地利用誘導

地域で守る部会

水害に強い地域づくり協議会

## 猪名川排水ポンプ場運転調整連絡協議会(仮称)で検討内容

### 1)参加機関等

河川管理者(国土交通省、府県河川担当部局)、府県(下水道担当部局)、関係市町村(河川担当部局、下水道担当部局等)、その他排水ポンプ場管理者、学識経験者

### 2)活動内容

#### ポンプ操作に関わること

##### 予測計算

- ・降雨による猪名川河川流量、水位
- ・排水ポンプ運転の有無による河川流量、水位及び堤内浸水位

##### 被害推定

- ・排水ポンプ運転による猪名川下流域の被害推定
- ・排水ポンプ運転停止による堤内の被害推定

##### 排水ポンプの運転、停止の協議、実施

・排水流域内土地利用状況等の変化を考慮した操作規則の見直し及び操作規則の作成により明確な運転調整を図る

- ・操作水位以下における運転調整要請要領を作成する
- ・情報連絡網を整備し緊急時の連絡体制を確保する

#### 住民周知に関わること

- ・ポンプ操作危険水位を提示する
- ・ポンプ停止後の内水の状況(急激な上昇水位)
- ・避難方法

流域内の都市開発などにより保水機能が低下  
短時間で降った雨が河川に流出

流域での現象は

流域からの洪水流出量を貯留施設・保水機能で抑制される  
その結果貯留施設の効果で浸水被害が回避される

破堤の危険性があれば内水ポンプ運転を停止その結  
果破堤氾濫による浸水被害は回避できる  
しかし内水ポンプが停止すると周辺地域が内水氾濫が  
発生する

実施しなければいけないことは

氾濫情報は速やかに周辺住民に伝達する  
貯留効果の把握

住民に治水意識の向上を図る

水害に強い地域づくり協議会

その結果以下に期待する

- ・洪水情報の有効活用
- ・治水意識の向上
- ・地域防災計画への反映
- ・建築物耐水化誘導
- ・土地利用の規制・誘導